

2022年度 園評価書

園番号 38 園名 有度西こども園

I 経営の重点に関わること

評価段階 (A:よくできている B:概ねできている、C:あまりできていない、D:できていない)

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
「優しくて たくましい子」	「思いを伝え 合って遊びを創 る子」	自分の好きなあそびを見つけて、夢中 になって楽しむ	子どもの興味関心に合わせた環境構成について職員間で話し合い、環境を整えていった事で、子ども達が自分の好きな遊びを見つけて楽しみ、遊びを発展させていた。また、保育者が子どもの思いに共感的に関わる事で安心して自分の好きな遊びを見つけ、夢中になって楽しんでいる。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 子ども達一人一人が本当に生き生き楽しそうに遊んでいて好きな遊びに集中できていると思う 自分の言葉で説明したり友達の思いを聞いたり認め合ったりと自己肯定感を高めながら相手を尊重する気持ちが芽生えてきたと思う。それを先生方が待ち、見守る姿が見て取れた。 自分の思いを伝えるには発達過程でありレベルを下げてもいいのではない 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの興味関心や発達に合った環境を工夫し、個を大切に一人一人が遊びに夢中になることができるように関わっていく 自分の思いを伝えたり友達の思いを聞こうとする子が増えてきた。引き続き、保育者が仲立ちとなり思いを伝え合えるよう関わり、遊びを創ることを楽しめるよう丁寧に関わっていく
		友だちと一緒にいる心地よさを感じ、 かかわって遊ぶことを楽しむ	トラブルの中で保育者が子ども同士の仲立ちをすることや、場の共有が出来るような遊び環境を作ったことで、友達と関わって遊ぶことを楽しむようになった。また、友達を積極的に誘って遊ぶ姿も見られるようになった。	A	A		
		自分の思いを伝え合いながら友だちと 一緒に遊びを創ることを楽しむ	イメージの共有をする中で自分の思いを伝えたり友達の思いを聞こうとする子が増えてきて、自分達の遊びを創る楽しさや満足感を味わうことができた。思いが強い子には友達の思いを聞いたり認めたりする事が出来るように保育者が支援する事で、子ども同士で一緒に遊びを創る姿につながってきた。引き続き支援していきたい。	B	B		

II 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
1 こども園における 教育及び保育	(1)0歳から小学校 就学前までの一貫 した教育及び保育	健康に配慮しながら、異年齢でかわ る楽しさを味わうことができる場や機 会を作ることができるように工夫して いく。	感染症対策をしながら異年齢で関わる場を意識して作った事で、日々の生活や遊びの中で自然と異年齢と関わる姿も見られるようになった。年長が作った「ゆりぐみらんど」への招待では、年長児が年下児に優しく接する姿が多く見られ、年下児へのいたわりの気持ちが育っていた。今後も異年齢での交流が出来る場を意識して作っていきたい。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 他クラスとの関わり、触れ合いの場をイベントを通して作っていただけなのが有難かった。一人で頑張ることはもちろん、ゆりぐみらんどや野菜の栽培など皆と協力したり人から教わる学ぶ機会を作っていただき感謝している お散歩マップは年々よくなっているように思う。その時の子どもの興味や関心によって求めるものが違うので年々加えていけばよい 園児に対して良いと思ったことは即取り入れ数々の経験を積ませることによりたくましい子が育ち創造性も豊かになったと思う。外部講師を招いたり子育てトークやデイサービスとの関わりも継続して地域とともにある園になった 連絡ノートや送迎時等で子どもの様子をしっかりと教えてくれるので安心できる掲示板には写真もあるので園での様子が分かるのが嬉しい 定期的に保護者向けの報告会や雑談会などで直接話をする場があるともっと伝わりやすいかと思う 地域との関わりもコロナ禍でも積極的に参加していただき園児の可愛い姿で心が和んだ方も多かったと思う。小さな子もお兄さんお姉さんの踊る姿を真似ていて微笑ましい 今年は若い先生が多くて当初は心配もあったと思うが、先輩の先生方と実践していく中で素直に吸収する心と熱意が感じられ、それが子ども達に伝わっていったと思う どの項目も中間自己評価よりアップとなり反省すべき点は反省しスピード感をもって取り組めた表れと感じた。今後も今まで通り保護者の方と連絡を密に取りながらオープンな園であり続けることを期待している とにかく先生方が優しく丁寧に子どもに接している場面が多く、安心がもてる園の経営だと思う 	<ul style="list-style-type: none"> 日々の生活や遊びの中で、保育者が異年齢での交流を意識して子どもに関わり、思いやりや憧れの気持ちが育つように関わっていく 個の生活リズムに合わせて職員間で連携を取り合い関わっていく。登降園時、保護者との伝達も丁寧にしていく 計画的に散歩に出掛けるようにしていくと共に、散歩マップの追加作成や活用をし、地域の自然に触れる機会を増やしていく 様々な状況や時間を想定して訓練を実施していく。また交番や消防署等の関係機関と連携を取り合い、安全への意識を高めていく 野菜の栽培や収穫、花育、肥料作りなどの環境教育等の取り組みを行う。活動は掲示板やおたより等で保護者に発信する 個々の支援計画に基づき全職員が共通理解し支援していく。また、関係機関と連携を図っていく 職員一人一人が分掌に責任を持ち、協力し合いながら進めていく。また、反省や課題を出して次回や次年度につなげていく 子ども達の伝え合う力を育てる支援を考えながら、視点を絞った園内研修に取り組む 思いを伝え合いながら、遊びをつくっていきけるような環境構成をしたり、発達を捉えた教材研究をしていく 日々の保育の様子や行事の取り組み等を掲示板や連絡ノート、おたよりなどで伝えていく。送迎時にも子どもの様子や体調について丁寧に伝えていく 近隣園や小学校と参観し合い連携をとっていき、保護者にも連携の様子を情報発信していく 今までの地域との交流の積み重ねを大切に、地域とつながる活動を継続していく
	(2)一日の生活の連 続性及びリズムの 多様性への配慮	個に合った生活リズムをつくること ができるように配慮し、早番、遅番保 育のクラス保育での受け入れや感染状 況に合わせた改善に取り組む	早番遅番の伝達を行い、子どもの様子を職員間で共有し保育をしてきた。登園時の視診や保護者対応は継続して丁寧に、室内の換気や消毒を毎日行い予防に努めた。遅番保育の遊び環境は塗り絵の補充や塗ったものの保管場所の設定等、少しずつ環境作りをしている。今後も感染状況に応じて臨機応変に対応していく。	A	A		
	(3)環境を通して行 う教育及び保育	散歩マップの活用をしながら、地域 の自然を保育に活かすことができるよ うに取り組む	園内の散歩マップに散歩時に撮った公園の写真なども一緒に掲示した事で、子ども同士でよく見るようになった。子ども達が、出掛けた公園やこれから行きたい場所など散歩マップを見ながら話すようになり園周辺の環境により興味を持てるようになった。今後も子どもと共に作り活用していく。	B	A		
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	様々な状況を予想し、様々な時間帯 の訓練に真剣に取り組む、安全意識を 高める	訓練は園内だけでなく園外保育に出掛けた時も想定して実施し、子どもの誘導や園との連絡など保育者間で連携、分担して行い、子ども達も真剣に訓練に参加していた。草薙交番や消防署の方に実際に訓練の様子を見ていただきアドバイスをしてもらった事で、より一層身を守る意識が高まってきている。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 季節ごと野菜の栽培を通して生長や収穫、育てたものを食べる事の喜びを味わう体験が出来た。年長児は環境教育で肥料作りや紙作りなど貴重な体験をする事が出来た。子ども達の体験は写真等を載せ様子を保護者にもお便りや掲示板で発信していった。 毎月のケース会議や定期的に行った支援者会議では支援児や気になる子の情報を伝え合う事で共通理解が出来た。今年度は支援サポート強化事業の実施園となったため、講師の先生に直接アドバイスを戴き保育に活かしていった。 分掌の担当が前年度の反省を活かし、企画や準備等を責任を持って計画的に行った。担当者だけでなく連携を取りながら園全体で協力し合い進めることが出来ていた。今後も一人一人が責任を持ち協力して進め、反省課題を出し次につなげていくようにしていく。 研究保育の園内研修では保育者のどのような支援が伝え合う姿につながっていたかを話し合ったり、外部講師を招いて園内研修を行い様々なアドバイスを戴いた事で深い学びとなり、保育に活かすことが出来ている。研修日よりや掲示で職員全体への周知も行った。 月案検討や乳幼児会議で研修テーマに視点を置いて話したり、課題についてアドバイスし合ったりして、日々の保育に活かしていった。子ども達の発達段階や興味関心に合った環境づくりや保育教材の準備をしていった。遊び環境の安全にも保育者間で共有し改善していった。今後も教材研究や環境設定について学びを深めていきたい。 クラスだよりや日々の連絡ノートや掲示板、送迎時等で子どもの様子や成長を丁寧に伝えたり、フクロウ通信や掲示板には写真を掲載することで保育の様子分かりやすくなるようにした。保護者の悩みに対し面談を行うなど子育て支援を行った。 職員が他園の公開保育への参加や小学校の授業参観の見学をしたり、他園職員に自園の公開保育に参加してもらったりした事で、環境構成や保育の展開の仕方など多くの学びがあった。保護者には掲示板で連携の様子を伝えたが十分ではなかった。今後、近隣園や小学校との連携は引き続き行い、保護者への情報提供は工夫していきたい。 感染症対策を行いながら地域との交流をすることが出来た。地域の活動に参加、交流する事で子ども達の中でも親しみを持って関わろうとする姿が見られたり、地域の方の前で披露することで自信にもつながった。今後も感染症対策を行いながら交流を続けていきたい。 	
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	季節の野菜を育て食育の取り組みをし たり、環境教育(肥料・紙作り)を行 ったりしていることを保護者に発信 していく	季節ごと野菜の栽培を通して生長や収穫、育てたものを食べる事の喜びを味わう体験が出来た。年長児は環境教育で肥料作りや紙作りなど貴重な体験をする事が出来た。子ども達の体験は写真等を載せ様子を保護者にもお便りや掲示板で発信していった。	A	A		
4 特別支援教育・ 保育	(1)支援体制づくり の推進	個別の支援計画に基づき、全職員で共 通理解をもちながら支援をしたり、外 部の研修に参加したことを園内で活 かしたりしていく	毎月のケース会議や定期的に行った支援者会議では支援児や気になる子の情報を伝え合う事で共通理解が出来た。今年度は支援サポート強化事業の実施園となったため、講師の先生に直接アドバイスを戴き保育に活かしていった。	A	A		
5 組織運営	(1)組織体制の充実	担当者が分掌に責任をもって取り組 むと共に、全職員が協力し、連携を とりながら教育・保育を進める	分掌の担当が前年度の反省を活かし、企画や準備等を責任を持って計画的に行った。担当者だけでなく連携を取りながら園全体で協力し合い進めることが出来ていた。今後も一人一人が責任を持ち協力して進め、反省課題を出し次につなげていくようにしていく。	A	A		
6 研 修	(1)研修体制の充実	子ども達の伝え合う力を育てる支援 を考えながら、外部講師の意見を生 かし、園内研修に取り組む	研究保育の園内研修では保育者のどのような支援が伝え合う姿につながっていたかを話し合ったり、外部講師を招いて園内研修を行い様々なアドバイスを戴いた事で深い学びとなり、保育に活かすことが出来ている。研修日よりや掲示で職員全体への周知も行った。	A	A		
7 教育・保育環境 整備	(1)教育・保育環境 の充実	思いを伝え合いながら、遊びを創っ ていけるような支援をしていくため に教材研究をしていく	月案検討や乳幼児会議で研修テーマに視点を置いて話したり、課題についてアドバイスし合ったりして、日々の保育に活かしていった。子ども達の発達段階や興味関心に合った環境づくりや保育教材の準備をしていった。遊び環境の安全にも保育者間で共有し改善していった。今後も教材研究や環境設定について学びを深めていきたい。	B	A		
8 家庭との連携・ 協力	(1)家庭教育への支 援機能の充実	子どもの健康や日々の保育の様子を 掲示板、連絡ノート、おたよりなど で積極的につたえていく	クラスだよりや日々の連絡ノートや掲示板、送迎時等で子どもの様子や成長を丁寧に伝えたり、フクロウ通信や掲示板には写真を掲載することで保育の様子分かりやすくなるようにした。保護者の悩みに対し面談を行うなど子育て支援を行った。	A	A		
9 近隣の学校との 連携	(1)近隣の園との連 携の推進	近隣の園や小学校に公開保育をし たり、授業参観をしたりし、保護者 にも連携の様子を情報発信していく	職員が他園の公開保育への参加や小学校の授業参観の見学をしたり、他園職員に自園の公開保育に参加してもらったりした事で、環境構成や保育の展開の仕方など多くの学びがあった。保護者には掲示板で連携の様子を伝えたが十分ではなかった。今後、近隣園や小学校との連携は引き続き行い、保護者への情報提供は工夫していきたい。	B	A		
10 地域との連携	(1)信頼される園づ くりの推進	保護者会や自治会、高齢者施設など 、健康面に配慮しつつも地域と信頼 関係を築くことができるような園を 目指す	感染症対策を行いながら地域との交流をすることが出来た。地域の活動に参加、交流する事で子ども達の中でも親しみを持って関わろうとする姿が見られたり、地域の方の前で披露することで自信にもつながった。今後も感染症対策を行いながら交流を続けていきたい。	B	A		